

十時啓悦—樹木と漆と暮らし

Akiyoshi Totoki—Life Among Trees and Urushi

MU M&L

Press Release 2020.09.16



《粗挽ぎ朱塗大盛皿》2020年



《段積みロクロ挽ぎ花器》2019年

会期：
2020年11月16日(月)
-12月19日(土)

武蔵野美術大学 美術館・図書館は展覧会「十時啓悦—樹木と漆と暮らし」を開催します。木漆工芸家・十時啓悦(本学工芸工業デザイン学科教授)の新作漆工作品約50点、近作約30点を中心に、十時の現在の手仕事を紹介します。

会場：
武蔵野美術大学美術館
展示室2 アトリウム1

木漆工芸には木材を加工して成形する「素地作り」と表面を塗装する「漆塗り」の工程がありますが、十時は完成に至るまでの作業を一貫して自身で行っています。唯一無二の芸術作品と、大量生産される工業製品の間にあるような十時の手仕事の根底には、造形への深いこだわりがあります。そして飽きずに毎日ずっと使えること、工芸品でありながら多くの人が手に取れることというように、一見相反することをかなえるためのバランスを追求する中で生まれたものでもあります。

開館時間：10:00-18:00
(土曜日・11月23日は17:00閉館)

休館日：日曜日

入館料：無料

椀、皿、盆、酒器、花器、家具—実際に手にとった時の感触や日常の中で愛用される風景に思いをめぐらせながら、十時の手仕事の世界をお楽しみください。

主催：武蔵野美術大学 美術館・図書館
協力：武蔵野美術大学 造形学部 工芸工業デザイン学科研究室
監修：十時啓悦(武蔵野美術大学 造形学部 工芸工業デザイン学科教授)

※会期などは変更になる場合があります。

本展の見どころ



《根来指物湯桶》2005年



《月光紋煮物椀》1997年

本展では、暮らしの中の漆器、主に椀、盆、皿、菓子鉢、酒器などの食器を中心に、十時の新作と近作を紹介します。制作にあたって十時は現代の暮らしの中で生きるものを作りたいと常に意識し、毎日の生活を彩る実用品として手に取りやすくするために高価な素材は使用せず、無駄のない手数とシンプルな仕上げで作品を制作しています。一方で、それぞれの器に個性を持たせて「飽きさせない」ようにしています。

伝統工芸における技法を踏襲しながらも、十時が模索してきた自身の表現がこうした個性につながっています。十時がよく用いる技法の一つ、「根来塗^{ねごろぬり}」では黒漆の上に朱漆塗りを施し、表面の朱漆を磨くことで中の黒漆を所々に露出させます。ここに研磨の一手間を加えることで、十時は使い込んだ漆器に見られるような漆の掠れ^{かす}を表現します。別の「錆付け^{さび}」という技法では、通常は砥^との粉^こという土の粉を混ぜた液状^{きょうじ}の生漆を木製の素地に塗って下地にしますが、十時は本来であれば表に出ることのないこの下地を、あえて風合いのある肌として作品に生かしています。

十時のものづくりは、多くの人が長い間、日常の中で愛用できるようにと、伝統技法の追求という枠を越えて、木と漆が織りなす“もの”としての「用の美」を追求してきました。本展では、木と漆という自然素材が見せる表情の豊かさ、暮らしに彩りを添える調度品としての魅力を紹介すると同時に、作品の制作方法や工程についての解説展示によって、十時特有の技法を紐解きます。

※本展は十時啓悦教授の退任記念展として開催します。

また、実際の展示作品と画像は異なる場合があります。



《錆模様六段重箱》1996年



《乾漆本朱輪花菓子鉢》2005年

作家紹介

十時 啓悦（ととき・あきよし）：

1950年 大阪府豊中市生まれ。1973年武蔵野美術大学 造形学部 産業デザイン学科工芸工業デザイン専攻卒業。1975年東京藝術大学大学院 美術研究科 漆芸専攻修了後に漆芸家の野田行作に師事。1977年に独立し、木漆工芸家として活動開始。1977年の第18回「日本クラフト展」、1981年の第22回同展で優秀賞受賞など、国内外で積極的に展覧会に出展する。その一方で、1986年武蔵野美術大学 造形学部 工芸工業デザイン学科の専任講師を経て、1994年からは教授として多くの学生の指導にあたる。国際交流基金の助成を受けた2015年のアジア漆工芸学術支援事業のカンボジアでの調査への参加など、漆文化の研究も続けている。また、東京都町田市の旧白洲邸 武相荘では、1995年に白洲正子から制作を依頼された家具が展示されている。

関連イベント

作家本人による作品解説を含むギャラリートークなどを予定しています。

※日時や内容など詳細が決まり次第、当館 web サイトにてお知らせいたします。

[同時期開催展覧会]

| | |
|---------------------------------|---------------------|
| 「Door is Ajar——ドアは開いているか 山本直彰展」 | 11月16日(月)–12月19日(土) |
| 「所蔵品展——ふたしかなデザイン(仮)」 | 11月16日(月)–12月19日(土) |
| 「ムサビのファカルティ展(仮)」 | 11月30日(月)–12月19日(土) |
| 民俗資料室ギャラリートーク | |
| 「紙・木・藁にみる祈りの造形」 | 10月26日(月)–12月19日(土) |

お問い合わせ先：

武蔵野美術大学 美術館・図書館
東京都小平市小川町 1-736
phone: 042-342-6003 fax: 042-342-6451
<https://mauml.musabi.ac.jp>

広報担当

mail: prmsm@musabi.ac.jp

プレス用図版をご希望の方へ：

- ・下記の注意点を参照の上、ご希望の図版と、必要事項をEメールにてお知らせください。
(お名前、ご所属、電話番号、Eメール、媒体名、掲載号、発行予定日、コーナータイトル)
- ・指定のクレジットを必ず明記してください。
- ・原則的には図版のトリミング、部分使用、文字載せはご遠慮ください。
- ・掲載内容確認のため、発行前にPDF等で原稿をお送りください。
- ・紙媒体は掲載見本のご寄贈(掲載ページのPDF可)、ウェブ媒体は掲載ページのURLお知らせをお願いします。